

育種素材 わい性リンドウ「A4PB No34-25」

【1 成果概要】

(財)岩手生物工学研究センターで土壌細菌アグロバクテリウム・リゾジェネス A 4 菌を利用して作り出された新形質リンドウです。貴重なわい性遺伝資源であり、育種素材として活用できます。

特性等

- 1 全体的に小型となる新形質リンドウで、草丈が低く、花・葉とも小さい系統です。
- 2 摘心なしでも側枝発生が多く、花蕾数も多くてボリュームがあります。
- 3 エゾ系リンドウと「A4PB」の他の系統を交配した後代からわい性の個体が得られています。



図1 対照品種「ポラーノブルー」と選抜系統「A4PB 34-25」

表1 A4PB 34-25 の特性 (H20、農研センター)

系統名	草丈 (cm)	節数	1次側枝発生数	花蕾数	花冠長 (cm)	花冠茎 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	開花盛期 (月・半旬)
A4PB No.34-25	11.9	8.6	12.2	71.8	3.9	1.0	2.5	1.2	8・6
ポラーノブルー(対照)	21.9	9.2	9.4	31.4	4.5	1.4	3.6	2.1	9・2

栽培概要：挿し木苗利用 挿し木 4/7、鉢上げ 5/20 (3寸 (9cm) ポット)
 摘心なし、鉢上げ後、露地で管理
 対照品種は、鉢上げ時 1 回摘心

【2 留意事項】

生産効率の点で母株の株落ち等の問題がありますが、その点を理解したうえで、栽培品種として活用することも可能です。

【3 効果】

わい性リンドウの育種素材等として活用が期待されます。

【4 適応対象】

リンドウ育種農家、団体等

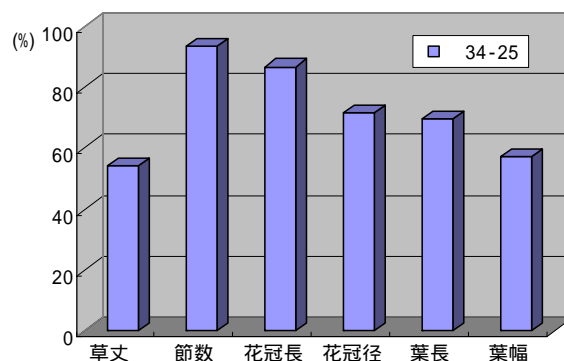


図2 A4PB 34-25 が示すわい性程度 対照品種ポラーノブルーを 100 とした場合